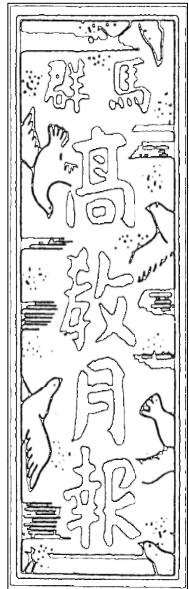


# 2023年第1回中央委員会

## 力を合わせて大幅賃上げと待遇改善を実現しよう！



前橋市大手町 3-1-10  
群馬高教組  
027-231-2784  
ghtu@educas.jp  
http://www.ghtu.org/



9月24日(日)、第1回中央委員会が教育会館中会議室で開催されました。組織拡大について水田委員長・原田さん(安総)・湯根さん(桐工)・小笠原書記からリード発言があり、仲間を増やすための活発な議論が行われました。委員会はすべての議案を可決し、秋季確定闘争へ向けての団結を確認して終了しました。職場でも「ひまわり署名」と「知事宛ハガキ」に取り組みながら、組合員が増えるよう、みんなで声をかけながら頑張ります。

### 組合員を増やそう！

来年度の役員体制が確立できるのか？委員長と書記長だけでは厳しく、危機感を抱いている。一人が一人拡大すれば倍増というのには机上の空論としても、そういう意識を持つ必要がある。

人任せにしないで人に頼り、情報本部へ寄せてほしい。学校では「鎌田さんも組合員です」と言うのを信頼される。つどいやレクに参加する顔を広げるなど、みんなで少しずつ工夫し、支えあおう。

### ○原田さん(安総)

共済などの配布物は、職員全員に渡すようにしている。総合共済7人加入はチョコがもらえるチラシを見て入ってくれたので、企画力が功を奏した。署名は学年主任の所に置くと回してもらえない形になっている。短冊をつけて依頼しているが、嫌という抵抗はなかった。

### ○湯根さん(桐工)

36協定の代表者を組合がやりたいという署名の裏に加入申込書をつけたら、地公臨の先生が4月に入ってくれた。「こういうことには入ると決めているので」と言ってくれた。組合を知ってもらおうアプローチがよかった。協定については、代表者となった人に聞いたら「校長・教頭にやってくれと言われた」ということで、これでは無効であり、何か起きると大変なことになる



左から議長の湯根さん、星野さん、上写真坂本さん

ので、民主的な決め方ができるよう継続してやっていきたい。病休については、校長に朝会で確認して去年までと同様に戻した。県教委に直接言えることも組合の意義である。未組合員から相談を受けた時には「相談までは無料です。組合として組織的に動くには加入して下さい。」と言っている。組合員は人が好いから入っていない人も助けてきたので、便利な団体だと思われている節がある。職場で労働組合が信頼される存在であるよう、今後も努めていきたい。

### ○小笠原書記

愛知医労連の方が「知ってもらうことが大事で、新採用者全員に声をかける。」と言っていた。組合に誘うトレーニングもしているそうだ。田中前書記長と職場訪問してきたが、最初は世間話をして相手の話をよく聞き、共通の話題を経て組合活動

### ○大貫さん(渡工)

私学で働いていてケガをしたが、労災はすんなり認められた。知り合いの地公臨の先生が、山岳とスキーの顧問をしていて「30万円立て替えて後で生徒から冬場にもらうので大変。何とかならないか？」と言っていた。どういう取り組みをしたらいい



### ○鎌田さん(伊商)

前工から伊商に転勤し、週1日は休める環境になった。ICTやスクールネットの活用で便利になったと言っても、楽になつていない。書類のチェックが多くて直すのに大変で、思い切つて変えていく必要があると思う。部活動の外部講師は1回5千円と聞くと「えっ」と絶句する人もいる。だったら今顧問をしている人にも出してほしいのに。そうすれば教員になりたい人も増えるのではと思う。

### ○秋原書記長

若者への声かけを大事にした。11月の被災地をめぐる行事への参加を呼び掛けたり、執行委員に出てくれないかとお願いもしている。「部活動があることで21時以降なら」と言われることもあるが、「また今度ね」と辛抱強く待っている。



○春山さん(渋谷)

4年ぶりに渋谷へ帰り、久しぶりに飲み会があった。チャンスはこれからと思う。非常勤講師の付随する業務への報酬を他の人に伝えたら、喜んでくれた。夏の体育館はとても暑く、顧問もつらかった。救急車を呼んだ例もあったと聞く。山形の事件のように、何かあつてから動き出すのは遅い。組合として見せられる活動を進めてほしい。

非常勤講師の問題

○東宮さん(特別組合員)

高宮全日制では一人分会だつたが、人事異動では相談も受けた。身近なお得情報などを示し、組合の存在を知らしめていく必要がある。3月に非常勤講師を「雇い止め」となった。校長からは「非兼時数はない」というニュアンスのことを言われたが、実際には別の人が来た。生徒や職員からは「何で変わっちゃうんですか?」と慰められた。私より年上で地学専門でない年金受給者が複数校で講師をやっているのに、年金受給開始前でシラバスまで作成した私に何の説明がないのは到底納得できない。人事委員会に労働相談し、県教委とも話し合いをしたが、県教委は「希望をかなえられなかったのは申し訳ない」「丁寧さを欠いた」と言うだけで具体的な説明はなく、何の対策も示さない。「丁寧をやっていたら違つたのか?」と問いたい。内示が

遅いのも問題なので、もっと早くするよう訴えたい。ピンチの時に組合はないと困る。黙つていては前に進まないの、私たちが武器の一つとして闘いたい。

○坂田さん(清陵)

不当な雇い止めを根絶することが大きな課題だ。希望を出しても認められない人事異動の問題で、不当人事は今もなくなっていない。非常勤講師も人事の希望を出す必要がある。会計年度任用職員はひどい制度改革で、時給扱いパート化してしまった。岐阜の残業問題では、知事が「実際に勤務した分を支払うのが原則だ」と述べている。全国的に広がる矛盾や「穴があく」現実を背景に、確定交渉で「非常勤講師の待遇改善と全うな人間扱い」を求めていきたい。

○大貫さん(渋谷)

東宮さんの問題は氷山の一角だ。校長が自分の教え子を司書にするため、資格のある司書さんを雇い止めた例を知っている。人事希望調査を取った方がよいが、他の人がどう思うか迷いもある。校長に「7月に任用が切れるので2学期以降もよろしく。来年も木金あけるのでよろしく。」と伝えたら「そう言ってもらえると助かるよね」と言われた。個人的に伝えるのもありだと思つた。

学校の諸問題

○原田さん(安総)

夏の要請行動で屋上太陽光パ



ネルの話が出たが、グリーンイノベーション推進室による県有施設30か所視察があるそうだが(高女・富実・高宮特も)。体験入學の際に養護教諭もいなければならぬのは働き方改革に逆行しているのではないかと。コロナで病休あけに事務長から「自宅療養」と書いてくれと言われた。理由を書く必要がない統一書式になるとよいと感じた。学校給食メニュー撤退は民間委託の弊害が原点にある。学校には民間委託はなじまず、生徒に深刻な影響が出る。現業の署名にご協力下さい。

○山口さん(玉村)

夏休み前に階段の天井がはげ落ちてきた。遠回りしないと教室へ行けない状態で、未だに修繕されていない。他の箇所も心配で早く対応してほしい。病休については「病院名を書け」と言う教頭もあり、県の指導がど

○萩原書記長まとめ

うなっているのか気になる。組織拡大について話題となり、交流できたのがよかった。「ハードルを下げる」「スモールステップから」、アプローチの仕方は異なつても、みんな違つてみんないいと思う。管理職による権利侵害については、その都度学校人事課に訴え、きちんと対応してくれていると感じることも多い。「どうなっているんだ」と県教委をつつのが執行部の役割なので、情報を寄せてほしい。大貫さんは牛のような歩みで、着実に押していく。私学の労災認定がしつかりしていることやスキー部立て替えの件など、情報提供はありがたい。東宮さん雇い止め問題はファウルチップで粘り強く闘いたい。来年度の執行役員体制については、すべての支部で検討し、何とか出せないかの議論をしてほしい。10月4日午後の県教委要請行動から秋季確定闘争がスタートします。ぜひ頭にとどめてもらい、参加して発言してください。学校現場からの生の声が、待遇改善につながります。



藤生校長の非人道的学校運営について訴えます!

父母・高校生・県民のみなさん  
昨年12月26日、富岡高校生徒(当時2年生)、故矢島雅彦君は、「若さをみんなで」という遺書を残して、自らガソリン4リットルをかぶり焼身自殺しました。故矢島君は、遺書の中で現在の教育・社会・政治の在り方に鋭く疑問を投げかけています。

教育者として、人間として、良心のない校長  
富岡高校の責任者である藤生校長は、故矢島君は「ノイローゼになって自殺したのだ」とうそぶき、職員会議さえ開いていません。お悔みに出向くこともなく、故矢島君に線香の一本もあげていません。生徒には厳しい規則を押しつけ、規則違反をタテにとつて昨年度は十数名の処分者を平気で出しています。

民主的學校運営や組合活動の自由を侵害  
藤生校長は、職員会議等で意見を述べようものなら「お前は口数が多い」とか「30歳以下は教員ではない」と言つて発言を封じます。組合を敵視し、「組合員は人間ではない」「お前はソ連人だ」と常識では考えられない暴言を吐いています。意に沿わない教職員を不当に配転させています。生徒は「富高は真空地帯だ」と訴えています。生徒から組合本部へ次のような手紙が寄せられています。「矢島君の死を無駄にするのか!富高の反動教育の実態を知らないと言わせないぞ。教師の暴力・検閲・ポスター規制一破らんとするならば退学。三年間に三人の自殺者を出した異常教育は我が校だけの問題ではない。」

父母・高校生・県民のみなさん  
私たちは、憲法・教育基本法に基づく平和で明るい民主的な教育が富岡高校で実現されるよう皆さんとともに努力したいと考えています。全県の学校で真の民主教育が行われるよう、また、生徒一人ひとりが伸び伸びと個性豊かに明るい学園で学べるようにするため、諸運動を展開いたします。

守随吾朗先生 「17歳は世界をひらく」

高教組の偉大なる先輩である守随吾朗先生が、自らの生い立ちを振り返り、終生をかけて国・県の教育行政と対峙しつつ、高校生の「自主活動」に寄り添い、育ててきた歴史を中間総括されました。この本の中で、1969年12月26日に錦川河畔で「政治活動禁止」通達に抗議して焼身自殺した富高生、矢島雅彦さんのことが取り上げられています。当時の生徒や組合に対する弾圧について、高教組に残る資料(高教組など地域の労働組合連名による訴えのピラ)から抜粋して右に紹介します。



守随先生による著作本の紹介。本部にあります。